

第二五四號

										保存期限	
						決行指定		決裁指定			
陸軍											
參務次官同付 決裁前後連帶 回覽課名 陸軍											
受領番號 密第一三九號 起元應(課)名 技術本部											
件名 爆破用火藥火具九九式破甲爆膏外三點制式制定件											
大臣 主務局長 政務次官 參與官 書記官 審案筆記者								高級副官 主務副官 官房御用掛計掛			
主務局長 主務課員 								主務課長 主務課員 			
主務局長 主務課員 								主務課長 主務課員 			
大房官臣大 了結昭年一月八日 領受昭年十一月五日 出提昭年十二月五日 領受昭年十二月五日 出提昭年十二月五日								本業決行相成度 一月昇官銜砲課 官房御中			

陸 副官ヨリ技術本部長へ通時

首題彈藥六月八日附陸技本秘甲第八一號上申、

通定メラルヘキニ付該図面(概説共)各二〇九部送付セシ度

陸密第二三三九號

昭和五年七月六日

(右送付アラル後左密技本秘甲第八一號上申)

陸 副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通時

左記彈藥別紙図面、通定メラルヘキニ付該図面(各 部

送付ス

左記

爆破用火藥火具九九式破甲爆雷並中箱携帶式衣及箱

目面(概説共)

陸密第一六九三號

昭和五年八月二十日

陸軍省教育總監ヨリ行ニハ(内ヲ別紙配賦表ノ通ニ付ルコト

附屬品送附濟

昭和五年十月二日



附紙添付

陸技本秘甲第八一號

爆破用火藥火具九九式破甲爆雷並三點制式制定ノ件
昭和十五年六月八日 陸軍技術本部長 多田 勝吉

陸軍大臣 畑 俊 六 殿

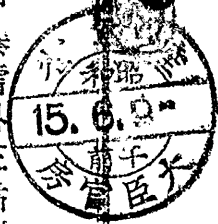
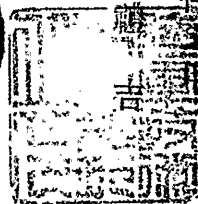
首題爆雷ヲ制式トシテ制定セラレ座左記圖ヲ相添へ上申ス

左 記

- 一 爆破用火藥火具九九式破甲爆雷並中箱携帶袋及箱圖面
- 一 同
- 一 九九式破甲爆雷取扱法
- 一 爆破用火藥火具細目名稱表
- 一 取扱區分表

概説及審査經過ノ概要

一 部
二 部
二 部
二 部
二 部



爆火藥大出圖下配賦表

[illegible]

1848

九九式破甲爆雷
概 説
審 査
經 過
ノ
概 要

昭和拾五年六月
本部



九九式破甲爆雷概説

用途

九九式破甲爆雷ハ主トシテ戰車ノ裝甲板ニ吸著セシメテ之ヲ爆碎シ以テ乘員ヲ殺傷シ又ハソノ要部ヲ破壊スルニ用フルモノトス

構造及機能

九九式破甲爆雷ハ体、信管、携帶袋及箱ヨリ成リ箱ヲ除キ全重量約一匁三〇〇トス

(一) 体ハ圓盤形(徑一二八耗、厚サ三八耗)ノ麻布製袋及吸著用磁石竝ニ爆藥ヨリ成ル

袋ニハ信管取附孔ヲ有シ外周ニ吸著用磁石四箇ヲ裝著シ内部ニ爆藥(一號淡黃藥六三〇瓦ヲ八箇ニ分割シタルモノ)ヲ收容ス

(二) 信管ハ擊發裝置、導火藥筒、尾筒、安全栓ヨリ成ル擊發裝置ハ導火藥ヲ發火セシメテ爆藥ニ點火スルモノニシテ常時保存ノ爲ニハ信管筒内ニ密閉シ使用ニ際シ爆藥内ニ挿入螺著スルモノトス

(三) 携帶袋ハ麻布製ニシテ破甲爆雷一箇ヲ收容シ之ヲ帶革ニ通シテ携帶スルニ用フ

(四) 箱ハ中箱、外箱ヨリ成リ中箱ニハ破甲爆雷二箇ヲ收容シ携帶ニ便シ外箱ニハ中箱一〇

筒及携帯袋ニ一〇箇ヲ收容シ運搬竝ニ格納ニ供ス
本破甲爆雷ヲ以テ爆碎シ得ル装甲板ノ厚サハ概ネ二五耗以下トシ一箇ヲ重ネ使用スルトキ
ハ厚サ四〇耗迄ヲ爆碎シ得

九九式破甲爆雷審査経過ノ概要

一、審査ノ起因

主トシテ戦車ノ装甲板ニ吸着セシメテ之ヲ爆破シ乗員ヲ殺傷シ或ハソノ要部ニ損傷ヲ與ヘ得ルモノノ必要ヲ認メ昭和十年八月部案トシテ審査ヲ開始ス

昭和十二年七月陸機密第九二號陸軍技術本部研究方針ニ審査項目トシテ決定セラル

二、審査ノ経過

(一) 昭和十年八月習志野演習場ニ於テⅡⅡ磁石及黃色藥ヲ結合シ緩燃導火索ニ依リ點火スルモノ(第一次試製品)ニ付キ試験セル結果構造、機能概ネ良好ナルモ投擲ノ場合吸着尙十分ナラサルヲ認ム

(二) 昭和十一年六月前取試製品ヨリ相々大形ノモノ(第二次試製品)ニ付キ部内ニ於テ試験ノ結果吸着力ヲ尙向上スルノ要ヲ認メ同年八月ⅡⅡ磁石ヲ廢シ更ニ強力ナルOP磁石ノ使用ニ付キ研究ス

(三) 昭和十二年六月從來ノ試験成績ニ鑑ミ投擲吸着ヲ可能ナラシムルタメ陸軍造兵廠東京研究所ニ軟爆藥ノ研究ヲ委託ス

(四) 昭和十二年九月前項ノ軟爆藥トOP磁石トヲ結合シタルモノニ付キ部内ニ於テ投擲試験ヲ實施シ吹著良好ナルコトヲ認メタルヲ以テ同月八柱演習場ニ於テ特種鋼板(厚サ二〇耗)ニ付キ爆破藥量ヲ概定ス又部内ニ於テ軟爆藥ノ低温試験ヲ實施セル結果零下概ネ一五度ニテ吸著ニ支障ヲ來スル程度ノ凍結ヲナスコトヲ認メタルヲ以テ之ガ改良ヲ陸軍造兵廠東京研究所ニ委託ス

(五) 昭和十二年十月富津射場ニ於テOP磁石、軟爆藥及特種信管ヲ結合セル第三次試製品ニ付キ特種鋼板(厚サ二〇耗)ニ對スル威力竝ニ各部ノ構造、機能ヲ試験セル結果藥量尙不十分ニシテ所期ノ爆碎威力ヲ發揮セズ信管亦延期ノ秒時ニ不揃アルコトヲ認ム

(六) 昭和十三年二月八柱演習場ニ於テ前項ノ改修ヲ經タル第四次試製品ニ付キ爆破試験ヲ實施セル結果爆碎威力ノ發揮上磁石ノ位置ヲ爆藥体外ニ變更スル必要ヲ認ム又信管延期秒時不揃ハ改善セラレタルモ尙點火機能ノ確實性ニ關シ改善ノ要ヲ認ム

(七) 昭和十三年四月軟爆藥ト併行研究ノ目的ヲ以テ豫テ陸軍造兵廠東京研究所ニ試製ヲ委託中ノ粒狀淡黃藥完成セシヲ以テ富津射場ニ於テ試験セシモ其ノ威力少ク實用ニ供

シ得ザルモノト認ム

(八) 昭和十三年六月軟爆藥ノ耐寒性附與ノ研究完成セシヲ以テ部内ニ於テ試験セル結果零下概ネ四〇度迄ハ使用ニ支障ナキコトヲ確認セリ但シ本改修ニ依リ爆藥ヲ收容スベキ點ニ防油性ヲ附與スベキ必要ヲ認メ之ガ研究ニ著手ス

又同月前項ノ耐寒軟爆藥ノ威力及第六項ノ改修ヲ經タル信管ノ機能ニ就キ富津射場ニ於テ試験セル結果前者ノ威力ハ常溫ノモノト同等ニシテ信管ノ機能モ亦良好ナルヲ認ム

(九) 昭和十三年防油能力ヲ附與セル藥完成セシヲ以テ部内ニ於テ試験セル結果其ノ成績概ネ良好ナルモ耐寒性十分ナラズ耐寒ノ使用ニハ尙改良ノ要アルヲ認メタルヲ以テ更ニ研究ヲ續行ス 但シ本研究ハ技術上急速ニ運び難キモノアリシガ故ニ別途ニ分割液黃藥ノ使用ニ就キ研究ヲ行フニ決ス

(十) 昭和十三年十二月八柱演習場ニ於テ特種鋼板(厚サ二〇耗)ニ就キ分割液黃藥ノ試験ヲ實施セル結果十分ナル威力ヲ發揮スルコトヲ認メシヲ以テ同鋼板爆碎ニ要スル藥量ヲ決定ス

陸軍

又同月前項ノ藥量ニ基キ新ニ試製セル破甲爆雷（第四次試製品）ヲ以テ部内ニ於テ投擲試験ヲ實施セル結果戰車ノ屋蓋ニ投擲セハ運動中ノ戰車ニ對シテモ十分吸著セシメ得ルコトヲ認ム仍テ從來ノ軟爆藥使用ノ研究ヲ中止ス

(五) 昭和十四年一月海拉爾附近ニ於テ零下四〇度ノ場合ニ於ケル信管ノ機能ヲ試験セル結果延期秒時ハ整齊ナルモ火導藥ニ一部ノ改修ノ要ヲ認ム

(六) 昭和十四年三月前項ノ改修信管ニ就キ部内ニ於テ試験セル結果成績優良ナルコトヲ認ム

四月

(七) 昭和十四年伊良湖射場ニ於テ第五次試製品ヲ以テ實戰車ノ爆破試験ヲ實施セル結果「チハ」車級中戰車以下ノ装甲（最大厚サ二五耗）ヲ完全ニ爆碎シ得ルヲ認メ概ネ破甲爆雷一箇ニ依リ戰車ニ致命的損害ヲ與ヘ得ルトノ判決ヲ得タリ

(八) 昭和十四年七月步、騎、工兵各學校ニ實用試験ヲ委託セル結果實用價值十分ナルモノト認ムルノ判決ヲ得タルモ若干ノ修正意見アリ（委託試験記事拔萃參照）

(九) 昭和十四年十月前記各實施學校ノ意見ニ基キ信管ノ延期時間其ノ他部分的改修ヲ實施セルモノヲ北滿特別演習ニ於テ試験シ良好ナル成績ヲ得タリ

以上ニ依リ本破甲爆雷ハ對戰車攻撃兵器トシテ實用價值優秀ナルヲ以テ制式トシテ制定然ルベキモノト認メ昭和十五年一月審査ヲ終了ス

陸軍

陸軍

歩兵學校委託試驗記事拔萃

昭和十四年七月五日
陸軍歩兵學校

一、判決

實用ニ適スルモノト認ム然レドモ尙次ノ如ク改良意見ヲ有スルヲ以テ研究ヲ望ム

二、意見

意見 及 希望

營部ノ處置

一、磁力ヲ更ニ増大スルヲ可トス

磁力ノ増大ハ重量ヲ増大シ

戦車速度十軒以上ノモノニ對シテ附著確實ナラザルコト

使用上ノ不便ヲ來シ其ノ他

アリ砲塔、側面等ノ垂直部ニ於テモ容易ニ附著シ得ル如

技術上ニ於テ要求ニ應ズル

ク改造スルコトヲ希望ス

改修ヲ行ヒ難シ

二、信管ノ延期秒時ヲ十秒又ハ一五秒ニ短縮スルヲ可トス

十秒ニ短縮ス

而シテ延期秒時ハ成ルベク正確ナランムルヲ要ス

陸軍

昭和十四年五月廿九日
陸軍騎兵學校

一、判決

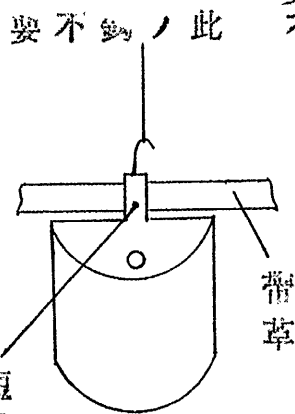
構造機能ハ概ネ適當ニシテ實用價值優秀ナルモノト認ム

二、意見

意見 及 希望

一、磁石保持環ノ取付部位ヲ更ニ堅牢ナラシムルヲ要ス

二、袋ノ鉤及連接セル部分過長ナルヲ以テ左圖ノ如ク改修スルヲ要ス



短クシテ帶ヲ挿入スル如クシ捻轉ヲ防止ス

當部ノ處置

實用ニハ支障ナキモノト認ム
演習用トシテハ別途ニ考慮ス

鉤ヲ除去シ連接セル部分ヲ短縮ス

工兵學校委託試驗記事拔萃

昭和十四年六月五日
陸軍工兵學校

一、判 決

九九式破甲爆雷ハ構造竝ニ性能ハ概シテ適當ニシテ信管ノ延期時間ヲ修正セバ實用價值十分ナルモノト認ム

二、意 見

意 見 及 希 望	當 部 ノ 處 置
一、信管ノ延期時間ハ約十秒ニ短縮スルヲ要ス	十秒ニ短縮ス
二、信管頭部ノ長サハナシ得レバ更ニ短少ナラシメ擊發動作ヲ容易ニスルト共ニ戰車ノ隅角部ニ發着セラレシ際ニ於ケル發着良好ナラシムルヲ可トス	短 縮 ス
三、炸藥ヲ包メル囊ハ更ニ強靱ナルモノヲ使用シ長時日ニ互ル拂帶ニ依リ磨損破綻スルヲ防止スルヲ要ス又磁石、保持環ト爆雷ノ囊トノ結合ハ更ニ堅實ナラシメ離脱スルコトナカラシムルヲ要ス	囊及袋ハ麻布ニ改メ強靱ナラシム

四、屢々使用セルモノハ磁石減衰シ垂直部及傾斜面ニ裝著セルモノハ不齊地ニ於ケル際突ニヨリ離脱落下スルニ至ル故ニ長時日ノ携行ニヨリ磁石減耗ヲ豫期セラルル時ハ豫備ノ磁石ヲ若干準備シ置クヲ要ス	實用上屢々使用スルコトハ殆ドナカルベク演習用ニ就テハ別途ニ考慮ス 故ニ特ニ豫備品ヲ附屬スルコトハ同意シ難シ
五、破甲爆雷ヲ收容セル木製箱ノ蓋ハ閉鎖用金具ヲ取付ケ運搬時ニ於テ收容器材ノ脱逸セザル如ク處置スルヲ可トス 尙長時日携行スル場合ニ於テ磁力ノ減耗防止上ニ二箇宛携行スルヲ必要トセバ背負袋等ニ收容スル場合ヲ願順シ二箇用ノ携行袋ヲ使用セシムルヲ可トス 防水ニ關スル布ノ地質ハ良好ナルヲ要ス	紐ヲ以テ結束スル如ク改ム 二箇携行ノ場合ハ内箱ノ儘其ノ「バンド」ニ依リ腰部又ハ背負ヒテ携帶スル如ク改ム 麻布ニ改ム
六、携帶袋ノ二般ノ構造ハ可ナリ地質ハ更ニ良好ナラシムルヲ可トス	麻布ニ改ム

秘

陸本秘甲第一二五號

爆破用火藥火具九九式破甲爆雷外三點圖面竝ニ概説送付ノ件通牒

昭和十五年八月十九日

陸軍技術本部副官 堀部 武雄

陸軍省副官 川原直一 殿

七月六日附陸密第一三三九號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝ニ概説左記ノ通送付ス

追テ現品ハ陸密番號押捺ノ上銃砲課ヘ直送可致ニ付承知セラレ度
左記

- 爆破用火藥火具九九式破甲爆雷（圖面七枚） 各貳百九通
- 九九式破甲爆雷中箱（圖面壹枚） 貳百九通
- 九九式破甲爆雷箱（圖面壹枚） 貳百九通
- 九九式破甲爆雷携帶袋（圖面壹枚） 貳百九通

第一三九號

昭和十五年八月十九日 陸軍省

陸軍省 技術本部 副官 堀部 武雄

陸

軍